

平成20年度 山口県立徳佐高等学校高俣分校 学校評価書 校長(爲久 薫 雄)

| |
|---|
| 1 学校教育目標 |
| 教育目標……自主創造 親和協同 努力実践 中期教育目標…豊かな人間性と段取り力を育む |

| |
|------------------------|
| 2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) |
| (平成20年度は記入不要) |

| |
|------------------------------|
| 3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題 |
| (平成20年度は記入不要) |

| 4 自己評価 | | | | | 5 学校関係者評価 | | |
|--------|-----------------------|--|--|-----|---|--|----|
| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策(教育活動) | 評価基準 | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析 | 学校関係者からの意見・要望等 | 評価 |
| 学習指導 | 魅力ある授業を行うための指導力の向上 | 他校のオープンスクールや教科指導の研修に積極的に参加し、指導力の向上を図る。 | 4 校外研修等の回数が教員1人平均2.0回以上 3 校外研修等の回数が教員1人平均1.5回以上 2 校外研修等の回数が教員1人平均1.0回以上 1 校外研修等の回数が教員1人平均1.0回未満 | 4 | 近隣の高校の授業公開に6人、地元中学校のオープンスクールに4人、やまぐち総合教育支援センターでの教科研修に1人が参加し、授業における指導力の向上に努めた。学校アンケートの「授業に満足している」の質問に肯定的に回答した生徒は約83%で、昨年度より約30%増加した。今後も、教員のスキルアップを図ってきたい。 | 朝夕に行われている漢字学習や計算学習を継続的に取り組むことも大切である。 | A |
| 生徒指導 | 欠席・遅刻・早退の減少 | 生活習慣を自己管理できるように、自己管理カードを用いて、毎月の出欠状況を生徒自身に把握させる。 | 4 無欠席・無遅刻・無早退の週が年間20週以上 3 無欠席・無遅刻・無早退の週が年間15週以上 2 無欠席・無遅刻・無早退の週が年間10週以上 1 無欠席・無遅刻・無早退の週が年間10週未満 | 3 | 2月末現在、無欠席・無遅刻・無早退の週は17週で、昨年度の9週(昨年度の1、2年生のデータ)に比べると大きく改善している。2月末現在、欠席3人、遅刻15人、早退11人で、遅刻・早退の主な理由は病院における定期検診である。今後は、生活習慣の確立に向けた新たな目標の設定を検討したい。 | 欠席が大きく減少していることは大いに評価できる。 | A |
| 進路指導 | 進路意識の高揚を図り、自己実現をめざす | 本校との合同開催を含め、進路講演などの進路ガイダンスを積極的に実施する。 | 4 進路ガイダンスを年間6回以上実施 3 進路ガイダンスを年間5回実施 2 進路ガイダンスを年間4回実施 1 実施した進路ガイダンスが年間4回未満 | 2 | 本校との合同開催の2回を含め、ガイダンスを4回実施した。校内では6月に就職指導専門員による講話、9月に外部講師による講演会を行った。学校アンケートの「自分の進路についてはっきりとした目標を持っている」に肯定的に回答した生徒は約66%で、昨年度より20%増加しているが、まだ十分とはいえず、今後より一層取り組んでいなければならない。 | ・評価基準が少し厳しめではないか。 ・進路について親子が家庭で十分話し合うことが重要であると思う。 | B |
| 健康安全 | 相談活動の推進 | 学年・分掌と連携を図り、相談活動を計画的に実施する。 | 4 相談活動を年間5回以上実施 3 相談活動を年間4回実施 2 相談活動を年間3回実施 1 実施した相談活動が年間2回未満 | 2 | 相談活動を各学期に1回ずつ、計3回実施した。各回とも事前アンケートを行い、全生徒の心身の健康状態を把握した上で、担任と連携を図りながら効果的な面談を実施した。今後は相談しやすい環境づくりに努め、生徒の心身の安定を図ることができると期待している。 | 包み隠さず、生徒が何でも相談できるように工夫して欲しい。 | B |
| 図書情報 | 情報管理・情報モラル教育に関する研修の充実 | 情報モラルに関する研修を実施し、指導力を高める。また、校内のネットワーク・情報機器の有効活用や管理方法についても研修を行い、校務の効率化を図る。 | 4 校内研修会を年間4回以上実施 3 校内研修会を年間3回実施 2 校内研修会を年間2回実施 1 実施した校内研修会が年間2回未満 | 4 | 教員を対象に、校内ネットワークや情報モラル等に関する校内研修会を4回実施した。また、11月には生徒、保護者、教職員を対象に、外部から講師を招き、「山口県ケータイ教室」を開催した。学校アンケートの「学校では、生徒の個人情報の管理を適切に行っている」に肯定的に回答した生徒は100%であった。 | ・情報モラルに関して十分研修されていると思う。 ・携帯電話に関する指導にも、しっかり取り組まれていると思う。 | A |
| 特別活動 | 美化意識の向上 | 掃除道具を整備し、日々の清掃活動をきちんと行う。また、毎月1回、全校生徒で校内外の美化活動を実施し、美化意識を高める。 | 4 学校アンケートで「美化に真面目に取り組んでいる」と回答した生徒が80%以上 3 学校アンケートで「美化に真面目に取り組んでいる」と回答した生徒が70%以上 2 学校アンケートで「美化に真面目に取り組んでいる」と回答した生徒が60%以上 1 学校アンケートで「美化に真面目に取り組んでいる」と回答した生徒が60%未満 | 4 | 毎月の美化活動の際に、掃除道具の整備を行っている。また、日々の清掃活動については、各生徒が責任感をもって役割をきちんと果たしている。教室の清掃は行き届いているが、グラウンドや体育館周辺など校舎外の清掃が十分でないと思われる。来年度は生徒数が5人になるので、清掃活動の実施方法などを検討していく必要がある。 | ・校舎内の清掃はいつも行き届いており、きれいでと感している。 ・グラウンドや校舎周辺は定期的に除草剤を散布したらどうか。 | A |
| 開かれた学校 | 家庭や地域への情報発信 | Webページ・ブログ等を定期的に更新し、年5回、学校広報を地域に配布する。 | 4 Webページ・ブログ等の更新が年間35回以上 3 Webページ・ブログ等の更新が年間30回以上 2 Webページ・ブログ等の更新が年間25回以上 1 Webページ・ブログ等の更新が年間25回未満 | 4 | Webページ・ブログ等の更新を35回以上実施し、日頃の教育活動の取組等を発信してきた。アクセス数は1日平均約300件で、学校の規模から考えると、多い件数であると考えている。今後は積極的な情報発信を行いたいと考えているが、来年度は教員数が減少するため、Webページの更新や広報誌の発行については、工夫していく必要がある。 | ・広報誌の発行回数を増やすと良いと思う。 ・地域の行事に積極的に参加していることは素晴らしいことである。今後も続けて欲しい。 | A |
| 2年部 | 基本的な生活習慣の確立 | 規律ある生活習慣を身につけさせ、欠席・遅刻・早退がないように指導する。 | 4 欠席・遅刻・早退があった日数が5日以下 3 欠席・遅刻・早退があった日数が10日以下 2 欠席・遅刻・早退があった日数が15日以下 1 欠席・遅刻・早退があった日数が16日以上 | 3 | 欠席・遅刻・早退があった日数が2月末までに7日あり、昨年度よりわずかであるが増えている。生徒が正しい生活リズムを身につけられるように、保護者との連絡を密にしてい、今後は不注意による遅刻ゼロを目指したい。また、将来、自立した生活ができるように、体の健康だけでなく、心の健康の大切さについても指導していきたい。 | 登下校の様子を見て、真面目な生活態度であると感している。 | B |
| 3年部 | 基本的な生活習慣の徹底 | 食育や生活習慣の指導の充実を図り、自己管理能力を育成する。 | 4 毎日、朝食を食べて登校する生徒が70%以上 3 毎日、朝食を食べて登校する生徒が60%以上 2 毎日、朝食を食べて登校する生徒が50%以上 1 毎日、朝食を食べて登校する生徒が50%未満 | 4 | 食に関する本や新聞記事を紹介したり、日頃の食生活の振り返りをさせるなどの指導を行った。朝食を食べずに登校する生徒が、朝食を持参するようになるなど、生徒の食に対する意識も向上してきたように思われる。朝食を食べない理由として「時間が無い」との回答もあるので、規則正しい生活習慣の定着を含め、家庭と連携した指導に取り組むたい。 | ・朝食をとる習慣は、小さい頃からの食生活に大きく影響されるので、保護者への呼びかけも必要だと思ふ。 ・食の大切さを引き続き指導して欲しい。 | B |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策(教育活動) | 評価基準 | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析 | 学校関係者からの意見・要望等 | 評価 | |
|------|-----------------------|---|--|--|---|---|----|---|
| 業務改善 | 学校の組織等 | 協働体制について、教職員の意見を集約し、学期に1回話し合う。 | 4 学校アンケート「教職員は協力し合って教育活動に取り組んでいる」の評定平均値が3.8以上 | 3 | よく当てはまるを4、やや当てはまるを3、あまり当てはまらないを2、まったく当てはまらないを1として、教職員対象のアンケート結果の評定平均値を求めると3.6であった。小規模校の良さを生かし、今後も、日常の業務について気軽に話し合いができるような雰囲気づくりに努め、協働体制を強化していきたい。 | ・少人数の教職員で良く努力されていると思う。 ・イントラネットは業務の効率化につながっていると思う。 | A | |
| | 教職員の協働体制の強化 | | 3 学校アンケート「教職員は協力し合って教育活動に取り組んでいる」の評定平均値が3.5以上 2 学校アンケート「教職員は協力し合って教育活動に取り組んでいる」の評定平均値が3.2以上 | | | | | |
| | 日常的な業務 | 職員朝礼の連絡事項や職員会議の資料等を各個人のPC上で見ることができるよう校内LAN上に教員用イントラネットを構築し、業務の効率化を図る。 | 4 業務の効率化が図れたと考える教員が90%以上 3 業務の効率化が図れたと考える教員が80%以上 2 業務の効率化が図れたと考える教員が70%以上 1 業務の効率化が図れたと考える教員が70%未満 | 4 | イントラネットを構築したことで、朝礼や会議の時間をかなり短縮することができ、連絡の徹底や情報の共有化も図れている。また、資料等を配布する回数も大幅に減り、ペーパーレスの推進にもなっている。これらのことが業務の効率化につながっているとされており、今後もPCを活用し、業務のスリム化を図ってきたい。 | | | |
| | 校内のイントラネットを活用した業務の効率化 | 勤務状況 | 教職員のメンタルヘルスに気を配るとともに、校務に支障のない限り、年休を遠慮なく取得するように日頃から声かけをする。 | 4 1人平均年休取得が14日以上 3 1人平均年休取得が12日以上 2 1人平均年休取得が10日以上 1 1人平均年休取得が10日未満 | 3 | | | 平均年休取得は約12.5日である。教員数が少ないため、1人で複数の仕事を担当しており、多忙な日々が続くこともあるので、休めるときは積極的に年休を取るよう呼びかけてきた。また、長期休業中は年休が取得しやすいように日直当番制を廃止した。今後もコミュニケーションを大切にし、明るく元気な職場づくりに努めたい。 |
| | 年休取得の推進 | | | | | | | |

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

・須佐分校との合同行事や地域の方々との交流活動に積極的に取り組んでおり、その合計回数は年間20回以上になる。これらの活動を通して、生徒に自己肯定感を実感させるとともに、人とかがわろうとする力や思いやりの心を育むことができています。さらに、生徒自身が自己理解を深めることで、自己の在り方・生き方を考えるキャリア形成にもつながっている。来年度は教員数が減少するが、実施方法等を工夫してより効果的な交流活動に取り組みたい。

・本年度の重点的取組の1つである相談活動の推進については、組織的かつ計画的に取り組むことができた。その成果は学校アンケートの結果にも現れており、「生徒の悩みや相談には適切に対応している」の質問に対して、肯定的に回答した生徒は約66%で、昨年より約20%増加している。しかし、まだ十分とはいえず、より効果的な相談活動を継続的に行うことが必要である。

・あいさつの励行、基本的な生活習慣の定着など生活面における課題はかなり改善され、このことが欠席の減少にもつながっていると判断している。また、学習面においては、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多く、今後、学習意欲の向上を図っていくことが課題であると考えている。

・業務改善においては3つの項目(学校の組織等、日常的な業務、勤務状況)とも目標をおおむね達成できたと判断している。

7 次年度への改善策

・生徒数は減少するが、活動の場や学校行事等を安易に縮小・削減することなく、外部の教育力も活用しながら多様な教育活動に取り組んでいきたい。特に、須佐分校との交流については、本年度以上に回数を増やし、より効果的な学習活動としたいと考えている。また、生徒が活動を振り返り、感想等を発表し合える機会を設けるなど、十分な事後指導を行いたいと考えている。

・相談活動においては、カウンセリング技術の向上や相談しやすい環境づくりなどに取り組む。よりきめ細かい相談活動を実践していきたい。

・魅力ある授業を実践し、学習意欲を高めていくことで、家庭での学習習慣の定着を図ってきたい。そのためにも、校内外の教科研修を積極的に進め、教科指導力の向上に引き続き取り組む必要があると考えている。また、各教科で適切な課題を定期的に与え、提出されたノート類には丁寧な添削指導を心がけるなど個に応じた指導を徹底したい。